

MAGiC HOUR

2026

夏号

「好奇心」つなぐれ!!



巻頭特集

選択とつながる

Cover

松尾 翼 / 飯盛 美音

連載

世界とつながる
未来とつながる

03 Cover Voices

あの結果の裏にあった、転機と選択
トップに立った先輩たちの3年間
飯盛美音 / 松尾翼 / 塚本一咲

04 巻頭特集 選択とつながる

挑戦と対話を重ねた3年間で、進路をつくる
先輩たちが語る「自分で選ぶ」ということ
浜田 萌々子 / 橋本 陀門 / 恒松 海史 / 松尾 翼
ゴータム・サクシャム / 吉田 善 / 信田 桜矢香



06 連載 世界とつながる

提携する協定校は5ヶ国、9校！
数字で見る飯塚高校の留学実績

07 連載 未来とつながる

九州工業大学・福岡県立大学・関西大学と連携し
大学レベルの学びへ接続する教育プログラムを展開
安永卓生さん(九州工業大学 学長) / 松浦賢長さん(福岡県立大学 理事・看護学部 教授)
坂本治也さん(関西大学 法学部 教授)

09 Activity Report

地域とともに、学びをつくる
まちLaboメンバーが挑む、地域と共創するプロジェクト



10 Open Campus Schedule

5月からオープンキャンパス(部活動体験)もスタート！
気になる部活動や人気の部活動を体験しよう

11 Information

12 Next Issue

全国大会や世界大会で結果を残した3人に、飯塚高校での3年間について聞きました。転機となった出来事や成長の実感、そして今につながる経験とは。頂点を目指してきた先輩たちのリアルな言葉から、その軌跡をたどります。

飯塚高校の3年間で得たものは？

飯盛さん ダンス部の活動を中心にとっても濃い時間を過ごすことができました。特に、自分が最高学年になった年は、毎年出場していた全国大会が繰り上げでの出場となり、「そう簡単には行かない」と改めて実感した1年でした。そのときの悔しさはとて大きかったです。その分、ダブルスで結果を残したいという思いが強くなり、同期と2人で何度も練習を重ねました。踊っては指摘し合い、私たちにしかできない作品を作り上げることができたと思います。その結果、チアリーディング世界選手権大会で優勝することができました。悔しい思いを共にしてきた部員や先生、そして応援してくださった方々に喜んでもらえたことが、とても嬉しかったです。

塚本さん まずは、入学当初のサッカー部での活動です。新しい施設、仲間、指導者の方々との出会い、中学校とは違う環境の中で、不安と期待を感じていました。ただ、なかなかAチームの試合に絡めず、はじめは悔しい思いを練習や自主練にぶつけていました。同じ思いと熱量を持った仲間と励まし合いながら、目標を持って活動に取り組んでいました。入学して早いタイミングで悔しい思いを経験できたこと、そしてそこから上のカテゴリーに絡めるようになったことが、自分にとって一番の転機だったと思います。



チアリーディング
ダブルス
シニア優勝

チアリーディング
日本選手権大会
世界選手権大会
で優勝!

飯盛 美音さん [トータルライセンスコース]

株式会社九十九島グループ 内定

全国高校駅伝
全国男子駅伝
出場!

「成長できた」と感じることは？

飯盛さん ダンス部では「誰よりも早く行動すること」を大切にしよう指導されました。最初は意識しないと行動できずでしたが、今では自然と動けるようになり、学校生活でも行動の早さが身についたと感じています。また、トータルライセンスコースでは、中学校では学ばなかった電車や、パソコンを使ったExcelの授業などに取り組み、多くの検定を取得することができました。飯塚高校は就職にも力を入れているため、安心して進路を決めることができたのも大きな成長のひとつです。

松尾さん レベルの高い仲間と切磋琢磨できる環境の中で、自分の意識が大きく変わったことです。日々の積み重ねを大切にすることで自信が付き、人と話すことや新しいことに前向きに向き合えるようになりました。また、競技を通して、仲間と協力することやチームの雰囲気づくりの大切さも学ぶことができました。

塚本さん 「今を頑張れるようになった」ことです。過去にとらわれず、未来に憧れながら、今この瞬間にできる最善に全力で取り組む。シンプルですが、とても難しいことです。自分はサッカーでFWをしているのですが、なかなか点を決められない時期がありました。そのときに中辻監督がこの言葉をおっしゃっていて、「今この瞬間にできることに集中しよう」と気持ちを切り替えることができました。日々のハードなトレーニングにも「今」に集中して取り組めるようになり、少しずつ結果にも結びついていきました。サッカーだけでなく、日常の過ごし方にも変化が生まれたと感じています。



松尾 翼さん [健康スポーツコース]

中央大学 文学部 合格

インターハイ
大会優秀選手
に選出

今、中学生の自分に声をかけるなら、何を伝える？

飯盛さん 中学生の頃は、高校で先輩方についていけないか不安でした。ですが、先輩方はいつも寄り添いながらたくさんのことを教えてくださいました。

だからこそ、その期待に応えたいという気持ちで努力を続けることができたと思います。どんなことにも共通しますが、「最後まで諦めないこと」、そして「自分ならできる」と信じてほしいと伝えたいです。

松尾さん 最初から自信がなくても大丈夫だと伝えたいです。自分も入学当初は不安がありました。環境と日々の積み重ねの中で少しずつ変わることができました。一人で抱え込まず、周りの人に頼りながら、自分の「やってみたい」という気持ちを大切にしてほしいと思います。

塚本さん 今やっている練習に無意味なことはありません。頑張りが続ければ、いつか何かしら自分に良い形で返ってくると思います。だから、自分が取り組んでいることに自信を持ってほしいです。結果が出ずに悔しい思いをしても、「成長してみせる」という気持ちを持ち続けていれば、少しずつ結果もついてきます。ネガティブになることがあっても、視点を変えて考えることでポジティブな側面を見つかることができます。自分の人生をより良くする責任を持って、周りの意見ではなく、自分の意志に従って生きてほしいです。そして最後に、「飯塚高校に入学してくれてありがとう」と伝えたいです。



塚本 一咲さん [健康スポーツコース]

J2「テガバジャロ宮崎」加入内定

※新チームの練習のため撮影には参加できませんでしたが、コメントを寄せてくれました。

選択とつながる



迷いを越えて見つけた、
自分の進む道

〈特進アカデミックコース〉

浜田 萌々子 さん

福岡教育大学 教育学部 中等教育教員養成課程英語専攻 合格

高校生活を通して、「自分の進む道」を見つけることができました。福岡教育大学出身の先生方の授業を受ける中で、先生になりたいという思いが具体化し、「こういう先生になりたい」と考えるようになり、同大学を目指しました。

生徒会活動や学校行事にも取り組みながら、目の前の課題の一つひとつ向き合うことを大切にしてきました。受験期は学校で勉強を続け、先生や仲間の支えを力に、努力を積み重ねることができました。

共通テスト後は進路に迷うこともありましたが、周囲の言葉に背中を押され、自分の本心に向き合い志望を貫きました。

受験を通して学んだのは、人と比べず自分の成長を見ることの大切さです。これからも自分のペースで努力を続けていきたいと思えます。



「やり切る」と決めた
あの日から、
自信は積み上がった

〈特進アカデミックコース〉

橋本 陀門 さん

北九州市立大学 経済学部 合格

3年間を通して強く感じたのは、「やり切ることの大切さ」です。2年生から受験勉強に本格的に向き合い、苦手だった数学にも逃げずに取り組みました。やると決めたことを毎日コツコツと積み重ねたことで、自分の中に大きな自信が生まれました。

また、タイへの交換留学や街なか学園祭でのクラスリーダー経験を通して、多様な価値観に触れ、「まず行動すること」の大切さを実感しました。自分から動くことで周りも動き、成長につながることを学びました。

飯塚高校には、挑戦を支えてくれる先生や仲間がいます。その環境の中で積み重ねてきた経験が合格につながったと感じています。これからも自分の可能性を信じて、一つひとつやり切っていきたいです。



総合型選抜の挫折から3ヶ月、
やり切った先の、第一志望合格

〈特進グローバルコース〉

恒松 海吏 さん

関西大学 経済学部 経済学科 合格

総合型選抜での不合格を経験したことが、大きな転機になりました。インターハイ終了後、サッカー部を休部してまで受験に専念しましたが、思うような結果にはつながりませんでした。悔しさもありましたが、「このままでは終われない」と一般受験での再挑戦を決めました。残された時間は約3ヶ月でした。

そこで「合格するために必要なことだけをやる」と決め、基礎を徹底的に繰り返す勉強に集中しました。仲間と励まし合いながら努力を続け、第一志望に合格しました。

今回の経験を通して、どんな状況からでも努力次第で結果は変えられると実感しました。これからも自分を信じて、やるべきことに向き合いながら、最後までやり切る姿勢を大切にしていきたいです。



走り続けた先で、
景色が変わった

〈健康スポーツコース〉

松尾 翼 さん

中央大学 文学部 合格

飯塚高校での3年間で一番大きかったのは、自分を信じられるようになったことです。入学前は全国を目指すことなど想像できませんでした。2年生で出場した大会で優勝した経験が転機に。「もっと上を目指す」と思えるようになりました。

全国高校駅伝への初出場をきっかけに、地域の方から声をかけてもらうことも増え、自分たちの走りが多くの人に届いていると実感しました。競技としてだけでなく、地域の一員として走る意味も感じるようになりました。

競技を続ける中でさらに挑戦したいと思い、中央大学への進学を決めました。どんなにきつくても、最後の100メートルは全力を出し切る。その姿を通して、最後までやり切る走りを大切にしながら成長していきたいです。



支えられながら、一歩ずつ。
世界へつながる3年間

〈特進グローバルコース〉

ゴータム・サクシャムさん

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 合格

高校生活の3年間は、周りの人に支えられながら少しずつ前に進んできた時間でした。日本に来た当初は日本語も話せず、不安が大きかったのですが、入学初日に「大丈夫だよ」と声をかけてくれた友達の言葉に支えられ、「ここで頑張ろう」と思えました。

英語劇や街なか学園祭などの活動に挑戦する中で、仲間と協力してひとつのものをつくる大切さを学び、自分の成長も実感しました。進路については、日本で英語で学べる環境に魅力を感じ、APUを志望しました。

将来は、ネパールを出発点に異なる文化をつなぐ仕事に関わりたいと考えています。不安があっても、挑戦できる環境があれば前に進める。そのことを教えてくれた3年間でした。行動し、振り返り、自分で考えて選ぶ。これからも、その積み重ねを大切にしながら成長していきたいと思います。



人と向き合い続けた3年間が、
進む道をつくった

〈特進グローバルコース〉

吉田 善さん

明治学院大学 社会学部 社会学科 合格

高校生活の3年間で振り返ると、「人と向き合い続けた時間」だったと思います。サッカー部ではキャプテン、クラスでは委員長を務める中で、「自分の言葉や態度がどう伝わるか」を強く意識するようになりました。中学までは自分の考えを押し通してしまうこともありましたが、活動を通して、人それぞれ考え方が違うことに気づき、まず相手の話を聞く姿勢を大切にするようになりました。うまくいかない時期もありましたが、向き合い続けたことでチームの雰囲気も変わっていききました。

また、留学生との関わりを通して多様な価値観に触れ、「人と組織の関係性」に関心を持つようになり、社会学を志しました。これまでの経験を言語化できたことが受験でも力になったと感じています。大学でもサッカーと学びの両方に本気で向き合い、人として成長し続けていきたいです。



「まずやってみる」を
選び続けた先に、
今の進路があった

〈特進グローバルコース〉

信田 桜矢香さん

西南学院大学 外国語学部 外国語学科 合格

中学までの私は自分に自信がなく、失敗を恐れて新しいことに踏み出す前に諦めてしまうこともありましたが、しかし高校生活の3年間で、挑戦を通して考え方や行動が大きく変わりました。交換留学やグローバル研究部、地域での活動に取り組み中で、自分次第で掴めるチャンスが身の回りにたくさんあると気づきました。

進路では悩むこともありましたが、先生と対話しながら自分の気持ちを言語化し、「何をしたいのか」を考え続けました。受験では苦手だった小論文にも向き合い、支えられながら乗り越えることができました。

この3年間で学んだ「まずやってみる」と「自分で考えて選ぶこと」を、これからも大切にしていきたいです。

飯塚高校では、教育方針GLI(Global・Local・Individual)のもと、生徒一人ひとりが「自分らしい強み」を見つけ、伸ばしていく学びを大切にしています。

今回登場する先輩たち(2026年3月卒業)は、勉強や部活動、探究活動など多様な経験を通じて、自分の可能性を広げ、志望校合格を実現しました。3年間の挑戦と成長の軌跡から、未来へ踏み出すヒントを感じてください。

もっと詳しい
インタビュー
を読む



※記事内容は取材当時
(2026年1~3月)のものです。

飯塚高校ではさまざまな国・地域の高校との交換留学の機会を提供しています。

飯塚高校

アジア

- 韓国**
 - 釜山観光高校 From 11人 / To 11人
- 中国**
 - 信男教育学園 From 7人
 - 大連十六中学校
- ベトナム**
 - ベトナム福岡県私立高等学校生徒アジア派遣研修事業 From 6人 / To 6人
- タイ**
 - インターキッズバイリンガルスクール (IBS) From 18人 / To 17人

北米

- カナダ**
 - ビクトリア高校 From 1人 / To 1人
- アメリカ合衆国**
 - サニーベール (姉妹都市) From 12人 / To 1人

オセアニア

- ニュージーランド**
 - ランギオラ高校 From 8人 / To 8人
 - ブケコへ高校
 - ワイヌイオマタ高校 From 2人 / To 5人
 - ロンゴタイ高校

留学体験記事

2022年度～2026年2月までの交換留学実績

提携する協定校は5ヶ国、9校あり、生徒一人ひとりの希望に寄り添った留学を叶えています。交換留学にかかる費用は、条件を満たせば主に往復航空券の代金のみで済みます。

交換留学に必要な条件

英語で
所定の成績を
クリア

交換留学先の生徒を
ホストファミリーとして
受け入れ可能



交換留学先での1枚。英語科教員をはじめとしたサポート体制のもと、生徒たちは安心して現地での学びを重ねています。

希望する国や地域の協定校へ留学することができるこのプログラムは、グローバルな視野を広げ、自らの可能性を試す絶好のチャンス!

大学とつながることで、学びは教室の外へ広がります。

飯塚高校では、近年連携を深める大学とともに、データの収集・分析やシミュレーション、研究活動や発表などにも取り組みながら探究を深め、その成果を地域や社会に発信する実践的な学びを展開しています。



九州工業大学

2025年度は、1年次の学びをもとに探究を深め、データの収集や分析、シミュレーションなどを通して研究に取り組みました。さらに、講義に加えてグループディスカッションなども行いながら理解を深め、大学の先生方や学生に向けて成果を発表するなど、実践的な学びを重ねています。

こんな授業をしています！



大学の先生方や学生を前に、自らの研究成果を発表。質疑応答や意見交換を通して、学びをさらに深めています。



九州工業大学 飯塚キャンパスを訪問して、ワークショップを実施しています。



九州工業大学 学長

安永 卓生 さん

飯塚高校との連携に期待するのは、探究で育まれた問いを、情報技術などの学びを通して解決への挑戦へと昇華させ、それを大学での研究へと接続し、地域課題の解決へと力強く循環させていくことです。

本学は、方法論やデータ活用の視点を提供しながら、高校生の挑戦に伴走します。高校・大学・地域が一体となり、「問い紐ける力」を持つ人材を育むプラットフォームを共に築いていきたいと考えています。

福岡県立大学

連携教育協定締結によって、飯塚高校で学びながら、福岡県立大学の授業を受けることができるようになります。その学びは大学入学後の単位(事前修得単位)として認められます。例えば「One Health」の授業は全15回がオンライン動画で構成され、県立大学のキャンパスに通わず履修することができます。

こんな学びが始まります！



福岡県立大学 柴田洋三郎 理事長・学長と 嶋田学園 嶋田吉彦 理事長が協定書に署名



連携教育協定書調印式の様子



福岡県立大学 理事
看護学部 教授

松浦 賢長 さん

福岡県立大学では、科目等履修制度をはじめとして、飯塚高校と双方の強みを生かした連携を進めていきます。高校での学びと大学での学びがつながることで、より深い学びの機会が広がっていくことを期待しています。

関西大学

2025年度は、坂本治也教授による特別講義や、同教授とそのゼミ生が講師役を務める主催者教育プログラムを実施しました。ワークやグループディスカッションも行いながら、政治や社会の課題を自分ごととして捉え、主体的に考える力を育む時間に。大学生との交流や対話を通して政治学の視点を身近に感じながら、人文社会系の学問への理解を深めるとともに、大学での学びやその先の社会との関わりを見据える機会となりました。

こんな授業をしています！



特別講義「歳を密く生き方」の様子。法学・政治学についての理解を深めるとともに、大学進学に対する視野を広げることを目指して開催されました。



関西大学 千里山キャンパス 尚文館。南側にはラクウショウ(落羽松)が並び、秋には赤茶色に色づく美しい並木が広がります。



関西大学法学部 教授

坂本 治也 さん

大学生が講師役となって高校生に主催者教育の授業を行うことで、政治学の分析視角をより身近に感じられるようになります。大学生にとっても、教える立場を経験することは貴重な学びとなり、日々の学びへの意欲を高めるきっかけとなります。高大連携を通じて、大学が受験の「ゴール」ではなく、生きるうえで役立つ学びの「スタート」の場であることを実感してもらえれば幸いです。

飯塚高校では、このほかにも九州大学や福岡大学、慶應義塾大学、近畿大学など、さまざまな大学と連携し、連携授業や特別講義を実施しています。現在の連携を大切にしながら、その質をさらに高めるとともに、今後も多様な連携教育の機会を広げていく予定です。

Activity Report

まちLabo
の活動は
こちらから



「まちLabo」は、飯塚高校の有志生徒で結成された、地域活動の企画・運営に取り組む組織です。商店街イベントやボランティア、各種の行事・企画づくりなど、地域とつながりながら新しい挑戦を続けています。



1 「土曜マルシェ」企画運営協カスタート〈7月〉

飯塚市の商店街で体験ブースを設置し、子どもたちと交流しました。背景には、風鈴ワークショップでつくった風鈴が揺れています。

2 「Social iCamp」でアイデアを磨く〈8月〉

地域をもっと良くするためのアイデアを、生徒同士でディスカッション。付箋を使った対話を通して、考える力とチーム力を磨きました。

3 アーティストとオリジナルキーホルダー制作〈9月〉

彫刻家・大黒貴之さんの指導を受けながら、伝統技法を使ったキーホルダー制作に挑戦。産学連携プロジェクト「アーティストレジデンス」の一環として行われました。

4 フードロス削減につながるアスパラガスのスープを販売〈10月〉

「みんなの健康・福祉のつどい」に出店し、来場者と交流しながらスープを販売。楽しみながら社会課題に向き合い、地域とのつながりを深めました。

5 「SB Student Ambassador」九州大会で発表に挑戦〈10月〉

九州の高校生とともにグループワークを行い、地域の未来についてアイデアを発表。学外でのプレゼンを通して、考えを伝える力と視野を広げました。

6 「街なか学園祭」に向けた準備ミーティング〈11月〉

近畿大学の学生と意見を交わしながら、企画や空間づくりについて話し合い。高校と大学が連携しながら、学園祭をより良くするためのアイデアを形にしていきました。

7 「おにぎりプロジェクト」で地域食材を発信〈12月〉

地元食材を生かしたオリジナルおにぎりを考案し、調理と発表に挑戦。他校との交流や発表の場での競い合いを通して、共創の大切さを実感する機会となりました。

8 冬期研修会でチーム力を高める〈12月〉

1年間の活動を振り返りながら、仲間と協力して野外炊飯や交流プログラムを実施。次年度の取り組みや新たな目標・挑戦について語り合い、これからの活動への意欲を高めた合同となりました。

9 土曜マルシェ運営で経験を力に変える〈1月〉

7月から継続して参加してきた土曜マルシェでは、役割を重ねる中で生徒たちの役割も広がってきました。準備から運営まで主体的に取り組み、地域に根づくイベントづくりを存在するへと成長しています。

Open Campus Schedule

2026年度オープン
キャンパスのお申し込み
はこちらから!

飯塚高校2026年 オープンキャンパス開催日程



Open Campus

部活動体験のみ

先輩たちと一緒に部活動に取り組むことで、
飯塚高校の魅力を体感できます。

5/18_月-5/22_金

6/22_月-6/26_金

6/29_月-7/3_金

※いずれも17:00~19:00の放課後を予定



Open Campus

土曜・夏期開催

夏以降も模擬授業などに参加いただけるプログラムをご用意しています!

8/1_土

8/19_水

9/5_土

9/19_土

10/3_土

※8月~10月の日程については、現在内容および実施時間を調整中です。

Information

Webで詳しくチェック!

飯塚高校の学びはふたつの柱から広がります。「探究プロジェクト」と「ネクストプロジェクト」。さらに、実践的な学びを深める専攻科も設置しています。探究プロジェクトでは地域や社会、世界とつながりながら、自ら学び動く力を育みます。知性と思考力を磨き、行動力を培うことで、変化の時代を切り拓く力を養います。ネクストプロジェクトでは、自分の「好き」や「好奇心」を起点に、体験型の学びを深めます。地域や社会でのフィールドワークを通して、リアルな課題に触れながら、自分だけの未来をデザインする力を培います。どの道を選んでも、3年間の学びを通して得られるのは、変化の時代を自分らしく歩み抜く力。そして未来を切り拓く確かな自信です。

探究
プロジェクトを
詳しく見る

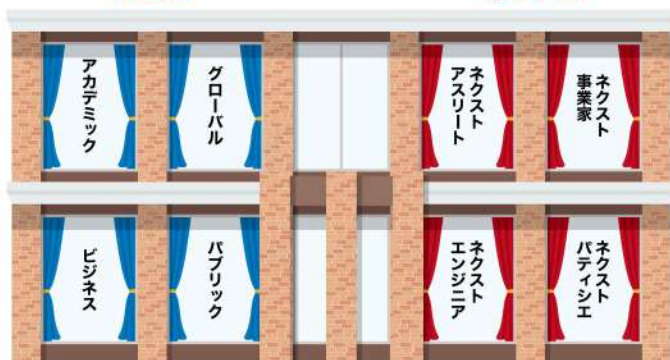


探究
プロジェクト
(普通科)

ネクスト
プロジェクトを
詳しく見る



ネクスト
プロジェクト
(総合学科)



飯塚高校ではWebサイトを通じてさまざまなニュースを発信しています。授業や実習の取り組み、各コースの独創的な学び、地域とのつながりを深める活動、グローバルな挑戦、個々の生徒にフォーカスしたインタビューまで、学校の日常を幅広くお伝えしています。

さらに、生徒主体で制作する月刊ニュースペーパー『飯塚タイムズ』も発行中!

生徒たちの視点で描かれる学校の今をご覧ください。



最新のニュースや『飯塚タイムズ』は、
右のQRコードから読めます!



巻頭特集 新しい自分とつながる

春から初夏にかけて、部活動は大会シーズンを迎えます。
日々の努力を胸に、それぞれの舞台へと踏み出す生徒たち。
勝敗だけでは語れない、挑戦の時間があります。
飯塚高校では、教育理念
「GLI(Global・Local・Individual)」のもと、
一人ひとりの個性や可能性を大切にしながら、
生徒が自分らしく挑戦できる環境を育んできました。
全力で向き合ったその瞬間の先に生まれる、
新しい自分との出会いを特集します。



連載 世界とつながる

英語が好き。海外に興味がある。
その気持ちがあれば、世界への扉は開かれています。
飯塚高校では、交換留学や海外協定校との交流、
模擬国連への参加など、世界とつながるさまざまな学びの機会を用意しています。
留学生やネイティブ教員との日常的な交流の中で、英語を使う環境も広がっています。
世界へ目を向け、一歩踏み出していく生徒たちの姿と、
その広がりをご紹介します。



連載 未来とつながる

飯塚高校では、「外に出て、動いて学ぶ」ことを大切にしています。
大学や企業、地域との連携、街なか学園祭などの実践的な取り組みを通して、
生徒たちは社会と関わりながら学びを深めています。
教室の中だけでは得られない経験を重ね、自ら問い、考え、行動する。
この連載では、学びの現場や卒業生の歩みを通して、
未来へとつながる学びのかたちをご紹介します。



Staff

編集長
嶋田 吉朗(常務理事/校長補佐)

ブランディングチームリーダー
中辻 喜敬(教員/サッカー部監督)

編集・ディレクター
池田 園子

Web担当
矢野 麻子

デザイナー
江口 学(White Product)

表紙撮影
帆足 慶一郎



IIZUKA HIGH SCHOOL